



わかやま

No. 77

和歌山県精神保健福祉センター

2018年11月

和歌山少年鑑別所 首席専門官 岡部 はるか

和歌山少年鑑別所・わかやま法務少年支援センターについて

和歌山少年鑑別所・わかやま法務少年支援センターは、和歌山市の広瀬地区にある法務省の施設です。司法関係以外の方にはあまりなじみがない施設だと思いますが、今回は、貴重な紙面をいただきましたので、少年鑑別所についてご紹介いたします。

少年鑑別所は、窃盗や傷害などの非行を犯し、家庭裁判所で審判を受けることになった未成年の男女の一部を、審判までの間在所させ、心身の鑑別を行う施設です。家庭裁判所の審判では、その子どもが今後非行を繰り返さず、健全な社会人になるためにはどのような「処分」が必要か、例えば、少年院に入院して特別なプログラムを受けるべきなのか、それとも、保護観察にして自宅に帰し、保護司を始めとする地域の方に見守ってもらうのが良いか、といったことが決定されます。少年鑑別所に収容されてから審判までの期間はわずか1か月弱ですが、少年鑑別所ではそれまでに、面接や心理検査、行動観察を行い、非行につながる問題点、心身の健康状態、障害や被虐待歴の有無、家庭や友人関係の問題、そして、伸ばすべき能力や改善に向けた意欲などを調べて、「鑑別結果通知書」というレポートにして家庭裁判所に提出します。



このようにいつもあわただしいのですが、ほかに、希望する子どもに勉強面でのサポートをしたり、社会生活のマナーや仕事選びについてテキストやビデオを見せたり、良い本をそろえて貸し出したりと、できるだけ一人一人の特性や興味に合わせつつ、健全な青少年としてふさわしい環境も作っています。また、外部から先生をお招きして、書道、ヨガ、ダンスをする時間もあり、そのような際は、非行少年の意外にも素直な笑顔が見えることもあります。

また、「わかやま法務少年支援センター」という名称で、地域の方からの非行や犯罪に係る問題の御相談に応じています。センターには日々、学校の先生、福祉施設のスタッフの方、中高生の親御さんなどから電話があり、子どもや利用者さんの非行や犯罪行為に困っている、再発を防ぐにはどうしたらいいのだろうかといった御相談をお聞きします。「非行少年は1日にして成らず」ですから、非行や犯罪の問題に特效薬はなく、簡単に解決しないものですが、当センターでは、まず相談していただくことが解決のための第一歩と考え、具体的なお話を聞きながら、一人一人の状況に合わせた助言や支援を行っています。

また、関係機関の方の施設見学や、研修への講師派遣、学校への法教育の出前授業なども行っています。困った時には「少年鑑別所にちょっと聞いてみようかな。」と思い出していただければ幸いです。

もくじ

- P1 「和歌山少年鑑別所・わかやま法務少年支援センターについて」
- P2 シリーズセンター長だより⑩/和歌山メンタルヘルスニュース(開催報告・研修会案内)
- P3,4 第15回精神障害者ソフトバレーボール
- P4,5 和歌山県大会わかやまこころのフェスタ2018/グループ紹介・協会長表彰
「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」表彰
- P6,7 「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」入賞作品
- P8 はーとふるネットワーク/編集後記

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193



お堅い公共放送

久しぶりにNHKの番組にちょっとだけ出ることになりました。Eテレで毎週土曜日の午後9時30分から9時55分に放送されている「ウワサの保護者会」という番組の12月8日の放送（再放送12月3日午前11時05分～）の中で、VTRでコメントすることになっています。この番組は「尾木ママ」として知られる教育評論家の尾木直樹さんと「ホゴシャーズ」と呼ばれる小・中学生の保護者が子育てや教育について語り合う番組で、今回のテーマは「親子の会話がむずかしい？」です。どんな放送になるのかは見てのお楽しみです。が、それよりも先日行われたVTR撮りでは、「お堅いNHK」という現実をまざまざと思い知らされました。



今回の出演は、制作担当者が思春期の親子関係についての拙著『思春期の子どもと親の関係性』を読んでいただいたことがきっかけだったので、著者としてはたいへん嬉しかったと同時に、全国放送でしっかり宣伝できることを期待したのですが、そんな下心を見透かした担当者から、すかさず「公共放送なので書名は出せません」と釘を刺されてしまいました。つまり、本のタイトルを出すのは商品名を出すのと同じことのように。すっかり目論見は外れてしまいましたが、撮影の時には背景の書棚に自著も並べて露出を試みましたが、出演は5分程度ですが、しゃべっている私よりも背景に是非ご注目ください。



開催報告

和歌山メンタルヘルスニュース

開催案内

【アルコール健康障害県民向け講演会第1回】

平成30年11月10日（土）、和歌山ビッグ愛201号室にて、講演会を開催しました。講演会では、京都市こころの健康増進センター所長の波床将材先生から、「アルコールのこと、知っていますか～アルコールの身体と脳とこころへの影響～」と題して、アルコールによる健康への影響や依存症になると意思の問題では解決しないが、回復の手立てはあることなどの講演がありました。



その後、断酒会の方の体験談や、県立こころの医療センターにおけるアルコール依存症回復支援プログラムについて説明がありました。参加者は40名でした。

【アルコール健康障害県民向け講演会第2回】

開催日 平成31年2月2日（土）
13:30～15:45

場 所 田辺市文化交流センター たなべる
対 象 どなたでもご参加いただけます
定 員 60名（申込先着順）

- 13:40～15:10 講演
「アルコールのこと知っていますか
～アルコール依存症の理解と治療について～」
新生会病院長 和気浩三先生
- 15:15～15:35 断酒会体験談
- 15:35～15:45 県立こころの医療センターの
取り組み



お問い合わせ・お申込先
和歌山県精神保健福祉センター
電話 073-435-5194
FAX 073-435-5193



【自死遺族支援関連研修 講演会&コンサート】

第7回 うめの花クリスマス交流会の開催

開催日 平成30年12月15日(土)
場所 精神保健福祉センター プレイルーム
対象 どなたでもご参加いただけます
定員 30名・入場無料(申込先着順)

■12:30~13:50 講演会

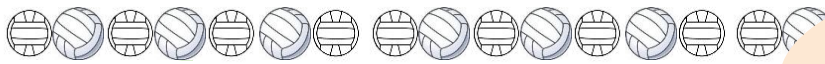
テーマ

「大切なあなたの為に、私は生きる」
株式会社オレンジライフ 山崎昌美氏

■14:00~14:30

Christmas ヴァイオリンコンサート

演者 池田智海氏



第15回 精神障害者
ソフトバレーボール大会



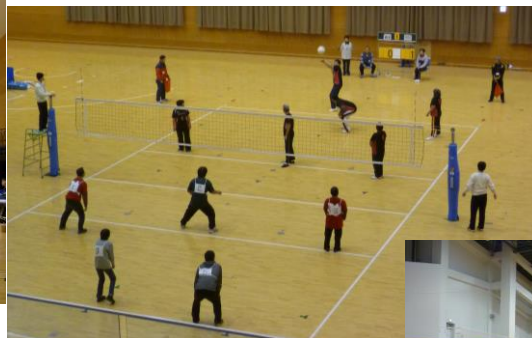
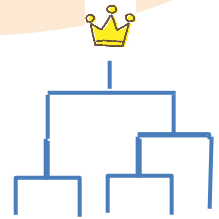
平成30年11月14日(水)に
第15回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県
大会が、今年は和歌山ビッグウエーブで開催されました。

ビッグウエーブ



今大会には県内より5チームが参加し、昨年優勝の
ブラックハーツをシードとしたトーナメント戦で試合
をしました。

白熱した試合の結果、県立こころの医療センターのブラックハーツが連覇で優
勝を決め、来年開催される近畿大会への切符を手に入れました。



ゆる体操



いっち、にい、
さんっ



また、エキシビションとして、各チームから選出スタッフで集結した、こころの医療センター亀井さん率いる「ドリームチーム」VS 運営にご尽力いただいた関係者で終結した、小野協会長率いる「レインボーチーム」のゲームも行われました。メンバーさん方の熱い応援で、「ドリームチーム」が勝利しました。みなさま、どうもお疲れ様でした。



大会成績

優勝 ブラックハーツ（県立こころの医療センター）
 準優勝 ∞INFINITY∞（やおき福祉会）
 3位 GO!!Go!! さくら（地域活動支援センター櫻）



平成30年11月24日（土）和歌山ビッグホエールで、こころのフェスタ2018を開催しました。精神保健福祉センターのブースでは自助グループの案内や「ほっとする笑顔つながるこころの絵」入賞作品の展示などを行いました。

ステージイベント ■グループ活動紹介

（社会福祉法人）一麦会 Po-zkk(ポズック)から、「ポズック楽団」が参加してくれました。

『ドンチャカ！ドンチャカ！チンドンドン！』
 派手に、にぎやかに、景気よく舞台一杯にちんどんショーを披露し、観客を楽しませてくれました。



■平成30年度和歌山県精神保健福祉協会会長表彰式



永年、精神保健福祉業務に従事し功績が著名な方と、精神保健福祉の普及啓発や、精神障害者の社会復帰に功績があった方々が、和歌山県精神保健福祉協会から表彰されました。



永年勤続功労表彰

亀井 宏明 様 県立こころの医療センター

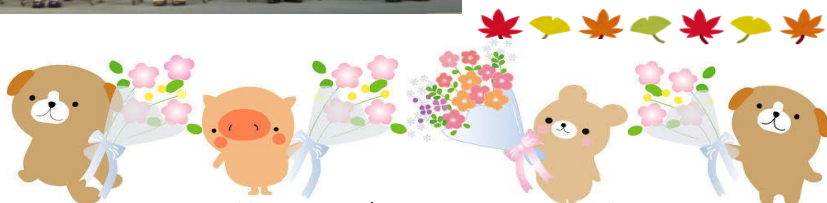
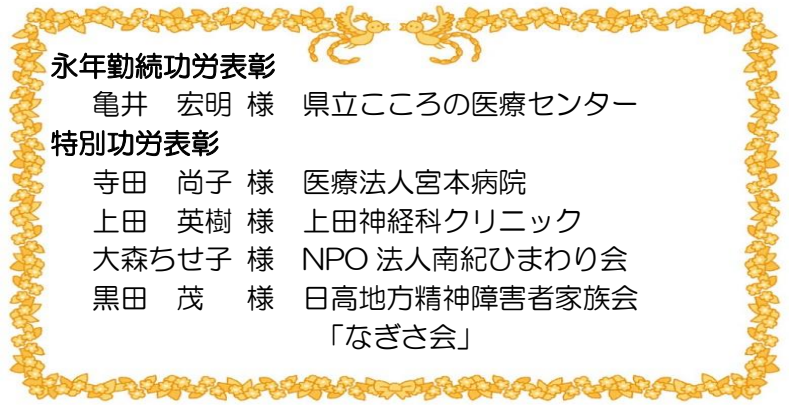
特別功労表彰

寺田 尚子 様 医療法人宮本病院

上田 英樹 様 上田神経科クリニック

大森ちせ子 様 NPO 法人南紀ひまわり会

黒田 茂 様 日高地方精神障害者家族会
「なぎさ会」



■平成30年度「ほっとする笑顔つながるこころの絵」表彰式

和歌山県精神保健福祉協会では、絵をとおして改めてこころの健康に考える機会にさせていただきたいと「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」を県民の皆さんから募集しました。

入賞された皆さんです。

(※奥野さんは、お父さんが代理で表彰式に出席してくれました。)



最優秀賞

小杉 修平 様 絵画教室ほっとチョコレート

優秀賞

小森 日向 様 橋本市立隅田小学校

井上 烈堂 様 和歌山県立橋本高等学校

入選

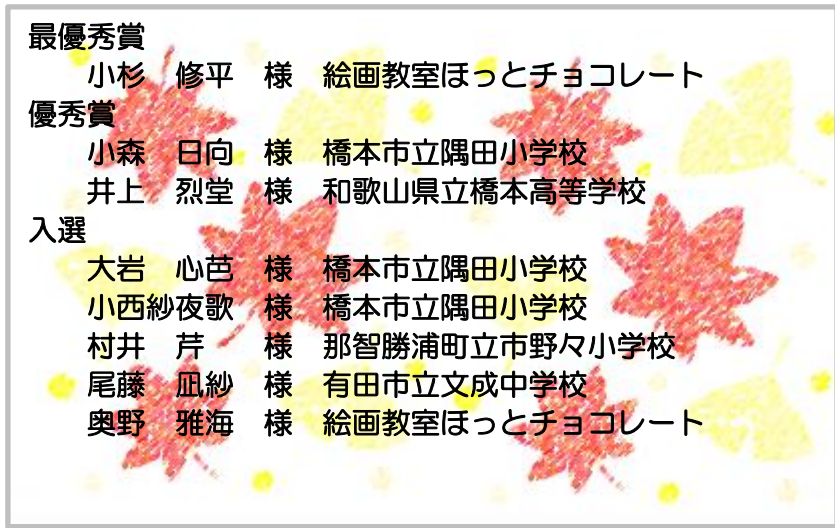
大岩 心芭 様 橋本市立隅田小学校

小西紗夜歌 様 橋本市立隅田小学校

村井 芹 様 那智勝浦町立市野々小学校

尾藤 凧紗 様 有田市立文成中学校

奥野 雅海 様 絵画教室ほっとチョコレート





平成30年度ほっとする 笑顔つながる ころの絵 入賞作品

82名の方から素敵な作品をご応募頂きありがとうございました。入賞された8作品をご紹介します。



最優秀賞 「飛ぶよ！ヘリコプター」
小杉 修平 様
絵画教室ほっとチョコレート 24歳



優秀賞「夏の思い出」
井上 烈堂 様
和歌山県立橋本高等学校
3年

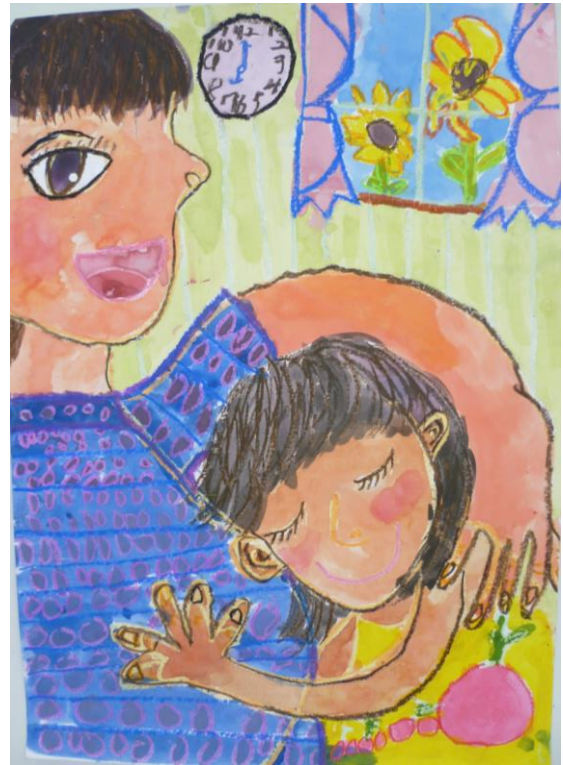


優秀賞「猫の夏休み」
小森 日向 様
橋本市立隅田小学校 3年





入選「犬の散歩」
大岩 心芭 様
橋本市立隅田小学校 5年



入選
「おなかの赤ちゃんが動いているよ」
小西 紗夜歌 様
橋本市立隅田小学校 2年



入選「にぎやかな世界」
村井 芹 様
那智勝浦町立市野々小学校 1年



入選「家族で演奏会」
尾藤 凧紗 様
有田市立文成中学校 1年



入選「はたらく自動車」
奥野 雅海 様
絵画教室ほっとチョコレート 20歳

精神保健福祉センターに展示しています。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、和歌山県立こころの医療センター

副主査看護師 和泉 真理子 さんです。

はーとふるネットワーク



ー看護師になられたきっかけは何ですか？

私が看護師を目指そうと思ったきっかけは、5 歳ぐらいの時に体の具合が悪くて両親に連れられた病院で、対応してくれた看護師がとても優しく可愛かったからです。そして幼心に私も看護師になりたいと思い、その場で両親に看護師になると宣言したのを覚えています。それからずっとぶれることなく、看護師になることを目指してきました。看護実習で患者さんとのかかわりを重ねる中で、「個々に合わせた看護とは何か」を考えることの難しさとしらさを知り、ますます看護師になりたいと思うようになりました。

ーこの仕事をしていて苦労する点はどのようなことですか？

人を相手にした仕事なので、簡単なことは何一つありませんが、私が特に苦労というか難しいと感じるのは、患者さんの意思を引出し、いかに地域につなぐかということです。

長期間入院されていたり、言葉で自分の思いを伝えることが苦手であったりする方も沢山いて、退院後どういふ生活をしたいかと聞いても、なかなか退院後の生活にイメージがつかなくなったり、不安でいっぱいになったりと簡単に意思を引き出すのができないことが多いです。そしてこちら側も試行錯誤して、ご本人の意思を引き出せたとしても、ご家族が難色を示されることもあります。ご本人・ご家族と十分に話し合い、退院後の生活の方向性を見いだせたとしても、地域の資源が不足していたり、調整が上手くいかず、入院が長引いてしまうケースもあり、本当に難しいなと感じています。

ー県立こころの医療センターのPRをお願いします。

当センターでは入院中の治療はもちろんのこと、退院した後も地域での生活を少しでもサポートできるように、訪問看護を行っています。また、当センターではアルコール依存症のプログラムにも取り組んでおり、ご本人だけでなく、ご家族も対象とした治療プログラムを行っています。



編集後記

早いもので、今年も残すところあと 1 か月。師走になると、忘年会やクリスマス、お正月と、アルコールを飲む機会が増えるかもしれません。楽しくお酒が飲めるのは（個人差はありますが）、ビールで換算すると、ジョッキ（500ml）1～2 杯までの「ほろ酔い期」までだそうです。そして、アルコールが体内で分解されるには、体重 60kg の方で、ジョッキ 1 杯あたり 3 時間半はかかるといわれています。前日のアルコールが残っていて飲酒運転・なんてことがないように気をつけましょう。アルコールと言えば、2/2(土)には田辺市内で講演会を開催します（P2 参照）。ぜひ、御参加ください（PR でした 笑）

ー休日はどういうようにして過ごされていますか？

スポーツジムに行き、エアロビクスや筋トレなどをして過ごすことが多いです。

ー今後の抱負について教えてください。

今年の 2 月から有志で退院支援ワーキンググループを立ち上げました。病院のメンバーだけでも勉強会を行っていますが、有田圏域基幹相談支援センターと、2 つの相談支援事業所と合同で 2 か月に 1 回、勉強会を行っています。この勉強会では、職種を超えて様々な意見交換ができる貴重な場となっていること。そして、顔の見える関係づくりにも役立っており、有意義な時間となっています。今後も勉強会を通して学びを深めていくことはもちろん、参加してくれる事業所が増えればいいなと思っています。

ー次の方のご紹介をお願いします。

医療法人宮本病院社会復帰部地域活動支援センターの中野千世さんです。

中野さんは、現在私が担当している患者様の退院促進で月に一度面会に来てくれ、一緒にその患者様の退院が実現できるように頑張っています。

また、とても熱心に地域移行について語られている姿を何度となく目の当たりにし、こういう方がいるから私たち病院職員は、安心して患者様の退院後の生活のサポートをお任せできるのだと、いつもいい刺激をいただいています。

中野さん、よろしくお願いします。

